

郷住者ってどんなひと？
南相馬の
カッコいい
おとな手帖



東京都 → 南相馬市

おとな手帖

No.13

マイナスからプラスの思考へ

複業で得られる出会いを楽しむ



今回のカッコいい大人

いとう ゆうが

伊藤 悠河さん(25)

愛知県豊橋市生まれ

お仕事 複業家

移住歴 2022年～

7歳

家族の転勤で
東京都日野市へ

18歳

伊勢丹へ就職し、
シャツの販売員と
して勤務。東京都
中野区で一人暮らし

22歳

カード販売店の
副店長に転職

24歳

南相馬市へ移住



小高駅での駅守の仕事も。利用者からの質問に答える伊藤さん。



元駅長室のフリースペースで、高校生を見守りながら過ごす。





伊藤さんに Q & A 聞いてみた!



Q1. なぜ南相馬市に 移住しようと思ったのですか?

A. 高校を卒業してから、東京の百貨店の伊勢丹で服などを売っていました。そこで知り合いに勧められ、服の材料であるコットンを栽培している小高区の農家を訪ねたんです。行ってみたらこの土地の雰囲気が気に入り、その後も2ヶ月に1度は通っていました。

5年間伊勢丹で働いたあとはカードショップの副店長をしていましたが、「やりたいこと」がないなら「住みたい場所」に行こうと思い、小高に移住することを決めました。空が広く、時間がゆっくり流れていく感覚に魅了されていたんです。それに、若いうちにいろいろ経験してみたかったのも理由の一つです。移住した当初は知り合いもない、仕事もない状態でしたが、今では人との繋がりができて、5つの仕事をしています。

Q2. どうして複業をしているのですか?

A. 小高に来て仕事を探している時に、家の近所の方が小高バイオニアヴィレッジに自分を連れて行ってくれたことがすべての始まりです。そこで「今、仕事がないんですよ」と言うので「仕事していく?」との一言。その言葉をきっかけに、いろいろな人と繋がることができました。

ひとつのコミュニティに属してみると、そのなかの人が別のコミュニティにも属していることで人間関係が広がります。そして、どんどん仕事が増えていきました。

今思うと、いろいろな場所で「仕事がない」と言っていたのかもしれませんが。それを受け入れてくださる温かい方々に恵まれていて感無量です。さまざまな仕事してるからこそ、さまざまな人と会える。それが楽しいです。



わたしが記事にしました!



高野 真帆
原町高校 2年

編集後記

伊藤さんのお話を聞いて感じたのは、気持ちに素直になることの楽しさです。失敗したり後悔したりすることを恐れず行動するのは、決して容易なことではありません。ですが、大胆に行動することで得られる人との繋がりもあると気づきました。



伊藤さんの暮らし・仕事について
さらに詳しく!

Webサイトの記事はこちら→



My favorite Minamisoma
南相馬のお気に入り

大三食堂
Daisan Syokudo

知人に会えるのも
楽しみです!



小高の駅前通りにある大三食堂がお気に入りです。よく食べるのは、ボリューム満点のかつ丼と肉うどん。雑多なお店の雰囲気も好きですが、地元のおじさんなど、普段はなかなか出会えない人たちに会えるところが気に入っています。世間話に混ざりにいたり、顔なじみになってくると気にかけてもらうようになったり。そういうのが楽しくて通ってますね。

OKINORI

移住者ってどんなひと？
南相馬の
カッコイイ
おとな手帖 って？

南相馬市には他地域から移住し、自分らしくかっこよく働くおとなたちがたくさん暮らしています。

彼らが「今、ここにいる理由」はさまざま。夢を叶えるため、誰かと共に生きるため……。それぞれの物語を紐解いていくと、多様な南相馬の魅力に気づきます。

「移住者」に会いに行くのは、南相馬市で育った高校生たち。自分たちには当たり前な環境も、移住者のみなさんの視点を借りると、なんだか違って見えてくる！

Publisher : 南相馬市役所 移住定住課

Direction : marutt Inc.

Editor : 小野民、蒔田志保、高野真帆、藤木千尋、大井紀葉

Designer : 高木市之助

Photographer : 鈴木穰蔵

南相馬で自分らしい暮らしを
実践している先輩移住者がたくさん！

南相馬市 移住者インタビュー Webサイトはこちら→

